

平成30年度 第1回消費生活モニター意見交換会報告

日時 平成30年7月27日（金） 午後1時30分～午後4時00分
会場 川崎市産業振興会館12階 経済労働局会議室 出席者 14人
次第 1 開 会

2 あいさつ

3 ワークショップ及び講演

テーマ 「私たちのくらしはすべて世界につながっている

～商品の一生を知ろう～

講 師 公益社団法人 日本消費生活アドバイザー・コンサルタント・相談員協会

代表理事・副会長：大 石 美奈子さん（ミニ講座講師）

理事・環境委員長：村 上 千 里さん（ファシリテーター）

4 閉 会

《 講義概要 》

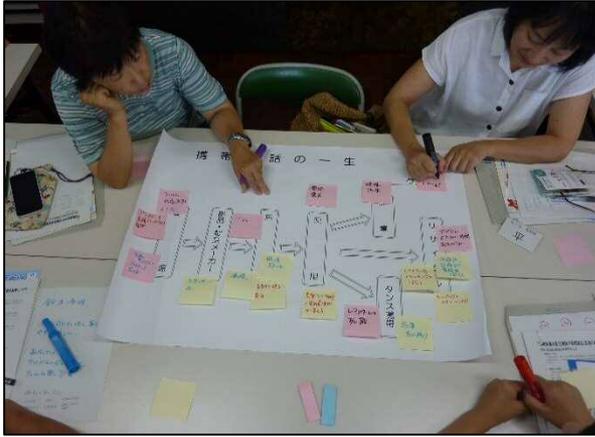
- ファシリテーターから「ワークショップ」について簡単に説明（参加する人が、主体的に、遊び心を持って、学び合う場）。
- アイスブレイク(*注)として、参加者のグループ分けを行い、自己紹介及び簡単な意見の交換（実際に自分が使ってみて良かったというエコ商品などの紹介）を行いました。
(*注)アイスブレイクとは、参加者の緊張をほぐし、話しやすい雰囲気をつくり、参加者同士が知り合うきっかけ作りのために行う簡単な作業のこと。
- 事務局からの挨拶のあと、今回もNACSの大石さんと村上さんを講師にお迎えして意見交換会の始まりです。



- アイスブレイクの時間には、自己紹介に絡めて、自分のおすすめのエコ商品等を紹介しあう時間がありました。今回はA、B、Cの3グループでしたが、自分の身近な経験に基づくお話は詰替式の化粧品や、充電式の電池の使用といった話から、お風呂の水の再利用、移動は自転車や公共交通機関にしているという話まで出ていました。事務局も各班を回りながら興味深くお

話を聞かせていただきました。

- その後、①レギュラーコーヒー②携帯電話③ちくわ（今回初登場）の3品目について、各グループで意見交換を行いました。
- 資源～商品の廃棄に至る商品の一生について、環境に負荷をかけていないか、生産者の健康や暮らしは守られているか、といった視点から検討し、皆さん、自分の気が付いたことについてどんどん付箋を貼りだします。



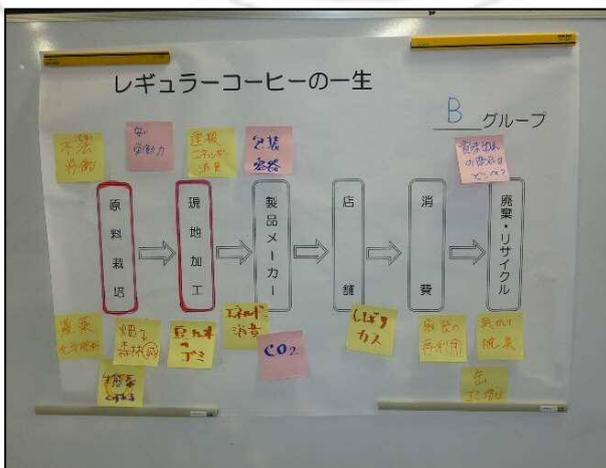
- そして、各グループ意見交換を行い、環境や生産者に負担をかけていると思われることを2つずつ選びます。最後に各グループの代表者が意見を発表し、全体で、グループごとに話し合われた商品の一生についての理解を深めます。



Aグループ
「携帯電話の一生」

Bグループ
「レギュラーコーヒーの一生」

Cグループ
「ちくわの一生」





意見交換した内容を各班に発表していただきました。

●発表後、ミニ講座として、「わたしたちの暮らしはすべて世界につながっている」をテーマに、講師から「持続可能な暮らし」、「商品の一生」などについて講義していただきました。コーヒーには自然や環境に配慮しているラベル（フェアトレード、有機 JAS マークなど）が貼られていること、消費者ができる賢明な商品の選択・購入や、ものを長く使い大事にすることなどについてお話をいただきました。



〈コーヒーについている認証マークのいろいろ〉



〈フェアトレード〉



〈レインフォレスト
アライアンス〉



〈グッドインサイド〉



〈バード
フレンドリー〉



〈有機 JAS〉

※有機 JAS マークは有機農産物を材料とした食品に、フェアトレードマークは食品に限らず、衣料品などにも使われています。

《参考》
認証マークの付いた商品



<まとめ>

1. 自分のくらしが、環境に負荷をかけていることを知ろう
2. ものは変化はするが、消滅はしないことを見極めよう
3. ものの来し方、行く末を想像する力をもとう
4. わからなければ調べよう、聞いてみよう
5. そしてグリーンコンシューマー、さらにエシカルコンシューマーになろう！

●講座後、各自「ふりかえりシート」を使って、今日の意見交換会で感じたことなどを振り返りながら記入の上、感想を発表していただきました。皆さんの感想から抜粋して掲載させていただきます。

- ・「持続可能なくらし」というキーワードで、じっくり考えたことがなかった。商品選びの観点が変わると思う。
- ・一つの商品の一生という形で、商品をしぼってその原料調達・製造・販売・購入・使用・消費・リサイクルと流れを見て、問題点を考える視点は面白いと思った。
- ・企業側も環境保護についていろいろな取り組みをしているのに、これまで発信に気付いていなかったことに驚いた。
- ・グリーンコンシューマー、エシカルコンシューマーという言葉は初めて聞いて、良い刺激となりました。
- ・グループでの意見交換を通じて、他のメンバーもみんないろいろ考えて消費活動を行っていると感じ、うれしかった。
- ・グリーンコンシューマーの活動が生産地の人々の生活を良くすることにつながっていることがうれしかった。
- ・ラベルやマークを意識して選択して消費していきたいです。(エシカルな企業、メーカーを応援したい)

《 全体から 》

今回は、「ワークショップ」の手法により、活発な意見交換が行われました。「レギュラーコーヒー」、「携帯電話」、「ちくわ」といった身近な商品を題材にしてモニターの皆さんに話し合ってもらいましたが、新たな知識の習得や、今後、物を購入する上で、考えるヒントを得たモニターの方も多かったのではないのでしょうか。

講師からは、まとめのミニ講座でお話ししていただきましたが、広大な範囲に渡って資源調達の現場となる鉱山、使用済みの携帯電話、日常的に飲んでいるコーヒーの話に至るまで、今回の講義を通して、フェアトレードに関する認識を深めた方は多かったことと思います。コーヒーに見られる認証ラベルなど、モニターの皆様には、日常生活の中でできる身近なことからよりよい消費者を目指していただきたいと思います。

